

暮らしの通信

色使いを工夫して



夏のお部屋に模様替え

梅雨がすぎたら、洋服だけでなく、お部屋も夏向きに着替えてみませんか？

インテリアに色を使うのは意外と勇気がいるもの。つい、白やベージュなど無難な色で統一しがちですが、ポイントに色を使うだけでお部屋の印象はがらりと変わります。

カーテン、クッションカバー、食器などの色使いを夏用の組み合わせにするための、簡単なテクニックをご紹介します。



テクニック1
グラデーションで品よく

色はたくさんあると乱雑になってしまいますが、反対に少なすぎても単調でおもしろみに欠けます。そこでおすすめなのが色の濃淡による組み合わせです。ひとつ基本となる色を決めて、その濃淡で変化をつけるグラデーションなら単調にならず、しかも品よくまとまります。

たとえば夏に向けて涼しげなインテリアにしたいときは、青の濃淡をとりいれるとさわやかな印象になります。濃い色は少なく、淡い色は広い面積に用いるのが上手にまとめるポイントです。

布を使うときは、無地に同系色の花柄やストライプなど、柄物をほどよく組み合わせると変化がついてよりおしゃれです。青だけでなく緑のグラデーションや茶色のグラデーションなども品よくまとまる夏にふさわしい組み合わせです。



テクニック2
反対色で元気のなる部屋に

インパクトのある個性的なインテリアを目指すなら、反対色をとりいれましょう。

反対色とは赤と緑、オレンジと青、紫と黄色などのことで、2つの色を組み合わせることでお互いの色の鮮やかさを強調しあう、見た目にも元気のでる配色です。ただし、使いすぎると印象が強すぎて落

ち着かないインテリアになってしまつので要注意。小花模様や細いストライプ、小さな水玉など、細かい柄ものは強い配色でもうるさくなくいので、単色よりもとりいれやすく、おすすめです。

最初は同系色で、慣れてきたら反対色にもチャレンジ。ちょっとしたテクニックで、インテリアは見違えるほど素敵になります。



暮らしメモ

インテリアの色のアレンジは、どの色を、どのくらいの量で使うかが大切です。センスよくまとめる色使いのコツとは？

アクセントカラーは全体の3割以内に収める

床、壁、天井など広い部分に使われる色をベースカラーといい、ベースカラーにめりはりをつけるのがアクセントカラー。ベースカラーが淡い色ならどんな色ともマッチしますが、気をつけたいのがアクセントカラーの量です。

一般的にはベースカラー7割、アクセントカラー3割ほどの配分がバランスがよく、落ち着いたインテリアになるとされています。

床、壁、天井から家具まで、トータルで考える

広々とした空間作りをしたいなら、床を濃い色にして、壁、天井には淡い色を選びましょう。これは安定感があり落ち着く定番の組み合わせですが、実は目の錯覚を利用して天井を高く見せる効果があるのです。

家具やカーテンなどをアクセントカラーとして用いるときは、床に近いほうを濃い色、壁、天井に近づくほど淡い色にするといでしょう。



